

**高血圧症自然発症ラット(SHR)における血圧と体重におよぼす放射線の影響
遺伝的素質は血圧に対する放射線影響に寄与するか？**

この研究は、放射線を全身に一度に浴びると循環器系にどのような影響を与えるかについて、2種類のラット（SHR：高血圧症自然発症ラット、WKY：ウィスター京都ラット）を使って調べたものです。

SHR のラットでは、放射線量が増えるにつれて収縮期血圧（SBP）は高くなり、また、発育が遅れることが分かりました。一方、WKY のラットでは、放射線量の増加に伴い発育が遅れていたものの、SBP には変化がありませんでした。

ラットという一つの生物の中でも、SBP、発育等に対する放射線の影響が異なっているのは、2種類のラットがそれぞれ異なる遺伝的素質を持っていることが原因である可能性があります。

また、このたび用いた SHR と WKY という2種類のラットが、循環器の病気、慢性の肝臓の病気、発育の遅れなど、がん以外の病気に対する放射線の影響を研究するのに役立つ可能性があることも分かりました。

doi : 10.1667/RR15536.1

本資料は、専門家でない方向けに出来るだけわかりやすく解説することを最優先しています。そのため専門的な内容は割愛しており、論文内容を完全に再現しているものではありません。より詳しい内容は出版社の論文をご覧ください。